

「確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究」 ～思考力や表現力に関わる指導を通して～

I 研究の内容

(1) 内容

- ◎学年・全校での活動を通して確かな人間関係を育む
 - 「生活・学習の基盤である学級・学年の集団づくり」
 - 「委員会活動・部活動の充実」
- ◎楽しくわかる授業を通して学ぶ姿勢を育む
 - 「知識・技能の確実な定着」
 - 「論理的思考力の育成」

(2) 研究方法

- ◆教科・領域・学年間の連携
 - 『活動の連続性の重視』
 - 『活動の振り返りの充実』
- ◆思考力・表現力の向上
 - 『授業展開の方法』
 - 『発問の工夫』

【講演・研究授業の実践】

- ・2年英語研究授業（野澤みずき教諭）
指導助言 身延中学校 校長 佐野嘉仁 先生
- ・1年国語研究授業（宮澤梨歌教諭）
指導助言 峡東教育事務所 主幹・指導主事 一之宮英文 先生
- ・2年学活研究授業（野澤みずき教諭）
- ・1年道徳研究授業（宮澤梨歌教諭）
- ・「教育相談研修」講師：スクールカウンセラー 町田悦子 先生）
- ・「コンピューター研修」講師：Eライブラリーより派遣

II 成果と課題

【成果】

(1) 教科・領域・学年間の連携

①『活動の連続性の重視』

- ・教科・領域・学年間における活動の関連について検討するなかで計画的な指導が行われている。

- ・学年や全校での活動を通して、しっかりとした人間関係が築けるような配慮をするなかで諸活動の指導が行われている。

②『活動の振り返りの充実』

- ・活動の振り返りの機会を設定することにより、自分の学習や活動への取り組み方について改善するとともに他者の活動や発表から学ぶことができるようになってきている。

(2) 思考力・表現力の向上

①『授業展開の方法』

- ・思考力の育成を図るような展開上の工夫をするようになってきている。
- ・表現する機会を設定することで、表現するときの注意点についての生徒の意識が深まってきている。

②『発問の工夫』

- ・生徒の関心や理解を深める発問のあり方について研究会を通して考えることにより、発問の工夫を図るようになってきている。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・英語の授業では、十分なインプットにより表現に慣れることの必要性や学習内容（指導内容）の焦点化を図ることの必要性が再確認された。・国語の授業では、学習内容（指導内容）の厳選や効果的な提示の工夫について検討され、ことばの理解とその使用について考える機会となった。・学活の授業では、キャリア教育の一つの取り組みとなる高校調べにおける留意点や発表方法についての検討をすることができた。・道徳の授業では、家庭の協力をえることで生命についての学習を深めることができた。生命尊重に関わるとても意義のある授業であった。 |
|---|

【課題】

- ・生活・学習の基盤である学級・学年の集団づくりにおいて、人間関係の構築がうまくいかない生徒への支援がさらに必要である。委員会活動においては、定期的な活動やより活発な活動となるような具体的な取り組みが必要である。また、部活動の充実においては、学校で設置している部以外での活動が中心となる生徒の増加への配慮が必要となっている。
- ・家庭学習の徹底や知識・技能の確実な定着を図ることにより、学ぶ姿勢を身に付けさせていくためにも楽しくわかる授業の推進を図っていく必要がある。また、論理的思考力の育成については、さらに意識した指導が必要である。

Ⅲ 成果物

- ・学習指導案、振り返りカード（学習記録表）、各教科評価説明会資料

（研究主任 辻 純二）